

変化する時代に 飛躍するエンジニア をめざして

参加費: JISA Webメンバー (本人)・学生 無料!!
JISA会員 (非webメンバー) 2,500円、一般 7,500円

2020年12月15日 (火) 13:00-17:30

※オンラインセミナー

詳細・お申込

<https://www.jisa.or.jp/event/tabid/3044/Default.aspx>

JISA技術革新委員会による、トレンド情報の発信、
実践的な開発事例の共有、技術者の交流の場です



■基調講演

新たな社会・産業構造をデザインするアーキテクチャというアプローチ

講演者: 白坂 成功

(慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授)

未来を創るITエンジニアになる秘訣

講演者: 甲元 宏明 (株式会社アイ・ティ・アール プリンシパル・アナリスト)

主催: 情報サービス産業協会

問い合わせ先: ソフトウェアイノベーションシンポジウム事務局 sis@jisa.or.jp

講演プログラム

13:00 ~13:10	開会挨拶 <div style="text-align: right;">岩本 敏男 (JISA 副会長 技術革新委員会 委員長 NTT データ相談役)</div>		
13:15 ~14:15	基調講演 新たな社会・産業構造をデザインするアーキテクチャというアプローチ  <p>デジタルに代表される新たな技術の出現によって、これまでにない社会・産業が生まれはじめている。政府では、Society5.0 のコンセプトのもと、人間中心の新たな価値を生み出す社会・産業構造をデザインすることを目指している。本講演では、この活動の中心となっているアーキテクチャについて説明するとともに、社会・産業アーキテクチャをデザインするために IPA に設置されたデジタルアーキテクチャ・デザインセンターにおける活動についても紹介します。</p> <div style="text-align: right;">白坂 成功 (慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授)</div>		
14:30 ~15:30	基調講演 未来を創る IT エンジニアになる秘訣  <p>世界中がデジタル時代を迎え、多くの企業や組織において先進的な IT テクノロジーの活用が望まれています。いまや独りでも世界を席巻する革新的なビジネスを創ることができるようになってきました。過去の常識や、企業/組織の枠にとらわれず、自らのスキルと直感を信じて果敢に挑戦するエンジニアが必要な時代になっています。本講演では、テクノロジーやスキルを武器にしてバラ色のエンジニア人生を切り拓くための考え方やアプローチを紹介します。</p> <div style="text-align: right;">甲元 宏明 (株式会社アイ・ティ・アール プリンシパル・アナリスト)</div>		
15:30 ~16:30	経験報告 10 件の経験報告を視聴できます。1 投稿あたり 20 分程度となります。 ※ 当日 10 時より公開します 動画視聴先の URL は参加者に後日連絡いたします。		
	【DX や AI に関するセッション】	【アジャイル開発やデザイン思考に関するセッション】	【組織やコミュニケーションに関するセッション】
	AI 技術を活用した高リスクプロジェクト予兆検知手法の提案 神林 友和 (株式会社 NTT データ)	アジャイル PMO ~ 大手 SIer の PMO のアジャイルトランスフォーメーションの旅 ~ 張 嵐 (TIS 株式会社)	社内 YouTuber の挑戦 ~ コロナ禍のコミュニケーション最前線 ~ 部田 裕介 (株式会社リンクレア)
	知見データベースを用いたレビュー自動化支援 林 香織 (株式会社デンソー クリエイト)	プロダクトアウト型製品開発におけるイノベーションデザイン手法とデザイン思考の適用 沼田 真仁 (キヤノン株式会社)	ニューノーマルでの多様で柔軟な働き方を実現するソフトウェア開発アプローチの実践報告 飯村 結香子 (日本電信電話株式会社)
	DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進のための情報システムモダナイゼーションの課題とアプローチ 小澤 司 (東邦ガス株式会社)	段階的なプラクティス導入によるアジャイルの定着 村上 孝 (株式会社デンソー クリエイト)	開発標準の作成における DevOps ~ 開発標準のインナーソース開発事例 ~ 熊川 一平 (株式会社 NTT データ)
	with コロナ, after コロナのソフトウェア開発における課題と対策 宮田 真紀子 (東芝デジタルソリューションズ株式会社)		
16:30 ~17:00	経験報告 QA ルーム A 10 本の経験報告を 3 人、3 人、4 人に分けて聴講者からのご質問などをお受けします。	経験報告 QA ルーム B	経験報告 QA ルーム C
17:15 ~17:30	クロージングセッション ・経験報告の表彰 ・プログラム委員長によるクロージング		